

第13回分科会において、デジタルコミュニティ放送について詳細な検討を行うのであれば、コミュニティ放送事業者の具体的な関心事項など、最新の情報を提出して頂く必要があるとの構成員からの指摘を踏まえ、提案者であるデジタルコミュニティ放送協議会から改めて実施したアンケート調査結果と受信機の開発動向・普及見込みに関するコメントの提出があった。その概要は以下のとおり。

## 1. アンケート調査結果の概要

調査実施者：デジタルコミュニティ放送協議会／調査期間：令和3年2月17日～22日

調査対象：コミュニティ・サイマルラジオ・アライアンス(※)加入の放送事業者／回答状況：78社に送付し**21社から回答**

※コミュニティ・サイマルラジオ・アライアンス(CSRA)は、コミュニティ放送局が放送と同時にストリーミングでインターネットに番組を配信するコミュニティ放送事業者の集まり

### (1) コミュニティ放送事業者の関心事項

災害時の自動起動、災害情報・交通情報のテキスト表示、広告・行政情報・地域情報の表示にURLの埋込み、Twitterのリアルタイム表示などアプリとの連携、動画や静止画のサイネージやスマホへの配信 等

### (2) デジタル化への課題等

デジタル化に伴う著作権料、ランニングコスト、設備投資への財政支援の有無等を踏まえた経営判断、災害時に有効な現行アナログ放送とデジタル放送の併用可否、スタッフの確保 等

## 2. 受信機の開発動向・普及見込みに関するコメント

デジタルコミュニティ放送用の受信機開発は行われていないが、制度化されれば開発が進むものと想定。

採用する技術については、地上デジタル放送のワンセグ受信機のプログラム改修等に対応可能との情報を得ている。また、地上デジタル放送を活用した防災システムの受信機開発が行われており、VHFにも対応可能との情報を得ている。

普及見込みについては、自治体で防災ラジオ(防災行政無線の戸別受信機にラジオ機能を搭載)を配布しているという記事もあり、切り替えのタイミングもあるが、新しい安心安全のシステムが出てくれば、導入が進むのではないかと考えている。